

阿智村学校のあり方検討委員会「中間まとめ」

パブリック・コメント(意見公募)のまとめ

公募期間: 令和7年3月27日(木) ~ 令和7年4月30日(水)

公募件数: 延べ 34人 102件

貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。
いただいたご意見をあり方検討委員会で共有・検討し、
最終答申に活かしてまいります。
なお、阿智村のホームページにも掲載しますので、
ご覧ください。

令和7年5月15日

阿智村教育委員会

諮問一 これからの子どもたちに育むべき資質や能力について(P1～2)

1	どれも社会に出たら絶対に必要な能力なので、今から子どもたちに身に付くよう最優先で重点的に取り組んでもらいたい。
2	国際化の知識・技能として、ネット社会で情報が溢れ、国内、世界においても偏った思想が懸念されます。多様化教育を望みます。
3	基礎的な知識や技能を学ぶとあるが、基礎学力についての方向性はどのような内容について検討されたのか、この中間報告には表記されていない。検討内容と表記しなかったことについて、詳細に明示されたい。
4	多様性を受け入れる、円滑なコミュニケーション 人数が少なく狭い世界で生きているため、広い視野で社会と関わる必要がある。
5	世渡り力
6	書かれている内容は理念でしかない。
7	村でのびやかに成長する良さを感じつつも、世界や日本に生きる自分を意識し、時代に合った力をつけることはとても大切だと思います。 保育園から英語に親しむ環境をつくってください、とても嬉しく感じています。 中学校で、マイクロソフトのリーディングプログレス使用できるようになると、子供たちが学校や家でAIによる練習機能により、自分で練習できると思うので、ぜひ導入をお願いします！（飯田市では導入されています。すでに導入されていたら申し訳ありません。）
8	海外などに行っても言葉が話せる。 地域の方々に勉強以外のいろいろな事（例えば畑など）を教えていただきたい。 自分から意見などと言う勇氣を持ってほしい。
9	身体動かした授業が増えたらいいですね。
10	世界に通用する人になってほしいというのがありますが、日本中がそこばかりに注力してしまうと、もっと大事なことをおろそかにしてしまいそうで怖いです。自分の子育ての反省も踏まえて考えると、自分の育った地域や周りの人々ともっと話をしたり行事に深く関わったり、この地域の過疎化を止めるには自分達が何をすべきなのかなど、大人と一緒に考えられる子ども達になってくれたら嬉しいです。自分の子ども達は今のところ1人も帰って来る予定はないので、あまりえらそうなことを言えないのが事実ですけど。とはいえ一度は県外に出ても、いずれは自分を育ててくれた地元(清内路)に戻ってこの地域を賑やかにして行ってもらえたらと、密かに願っております。
11	どの項目も大切なことだと思います。まずは、周りの大人が学んで身につけていかなければいけないなと感じました。
12	1つの答えや解答方法に拘らず、様々な見方や考え方をみにつけていってほしい。
13	何が言いたいのかよくわからない報告であった。国の指針のオウム返しであろうが、もう少し具体的な提案が無いと何を目標しているのか分からない。
14	対人との関係 画面越しではない関係性の持ち方
15	運動会やテスト等、競争が全くないためか、現状に満足しているように感じることがあります。競争を勝ち抜くにはどうしたらよいか子供の時に少しでも教えていただきたい。
16	私はAI開発者です。 AIの違いと人間の違いを見ていくと、今後、子供たちが伸ばすべき力がみえるのでは？と思っています。 1. AIには欲求がありません。子供達には様々なことに興味をもち、探究心を強くしてってもらいたいです。 2. AIは統計的に物事を判断します。 子供達には、論理的に考える力を養って頂きたいです。 3. AIには感情がありません。子供達には相手を思いやり、相手の立場になって物事を考えられる人になって頂きたいです。
17	1年の親です。上の子 28歳 と24歳の子が中学生の時 3クラスでした。24歳の子の時は69人でした。今の1年生73人です。3クラスで より行き届いたご指導をお願いしたいです。今後その予定はないのでしょうか。

18	どれも大切ですが、どうやってこんなにすばらしい資質や能力を身につけさせるのか。夢が大きすぎるのでは。
19	1から6は、これからの子供達に必要な力だと思います。これを目指して、すくすく、ぐんぐん成長していつて貰いたいと思いますが、支援員等を増やし、先生達の負担も減らせるよう考慮が必要だと思います。
20	資料の通り、現代は変化や多様性の時代になり、自分で考えて行動することが必要になってくる中で何を今から学び、身につけていくことが大切かを考える必要があると感じました。
21	通常の学力に加え何らかの専門的な知識やスキル。例えば農業とかモノ作り等
22	現在の子どもたちが育む資質、能力との具体的な違いは何か。具体的な教育内容の違いを知りたい。
23	特に「1 何を学ぶか？」は良いと思う。これだけに絞ってしまってもいいくらいに思う。基本的に学校が担うこととしてこのことを置き、他の力は1の活動を通じて付随して育めそう。 あまり玉虫色にならず、やりたい事を詰め込むのではなく、やらない事を勇気を持って決めることが大切だと思う。
24	ここに掲げられた課題は賛同すべきものだが、9頁以下の具体的施策(専門性強化、9年一貫性、先端技術強化、特別支援教育の分離)とは、どう考えても結びつかない(つまり、体裁上のお題目になっている感がある)。
25	冒頭に「5つの小学校と1つの中学校が特色のある教育活動を展開してきました。」とありますが、具体的に各学校の現状についてどのような特色があるのか、調査を実施していないと推察されますので、最終意見のとりまとめに向け、しかるべき調査と現状認識をお願いします。また、「不登校傾向が見られる児童が多いという課題」とありますが、私の地区においては不登校の事実を認識しておりません。こちらについても、実態の整理(各小学校及び中学校における不登校の割合、また当該割合が長野県や全国と比較した場合どうなのか)とその根源的な原因の把握及び報告をお願いします。
26	東京一極集中の今、地域に残って地域のために働く人間を増やした方がいい。どんなに素晴らしい学校を作ったとしても、みんな出ていってしまっは困る。国際化や多様性、持続可能な社会の担い手という言葉は格好が良いけれど、シンプルに地域に生きる人間を育てる、ではだめですか。海外や東京で活躍できる人がいればそれは応援すればいいし、こちらが言わなくてもでていきます。だって東京にいけば田舎独特のしぐらみもないし、なんでも手に入るし、自分の好きな仕事も多い。 故郷を離れてもいつか戻って役に立ちたい、という想いをこれからの子どもたちに持ってほしい。
27	①今、時代は大きく変化していて、これから先、職業もAIとかロボットに変わってしまうものもあるだろうと思っています。子どもたちには、自分で工夫したり、いろんな見方考え方で考えたり、様々なことに興味を持って育ってほしいなと思っています。

諮問二 今後の時代を見据えた学校と地域との関係性について(P3～7)

1	誰もが様々な分野で全村のどこでも学べるよう期待したい。
2	言葉が先行している感が否めない。 地方創生に関する最新のトレンドを取り入れているように見えるが、具体的に何をするのかをもう少し具体的に示して欲しい。
3	世界の先進国を見ても、人口減少課題は避けられないと思います。限られた財源を分散することから、一人一人に合った質を高める教育のために活用すべきではないでしょうか。
4	子どもたちの笑い声が響き渡る。それは、地域にとってかけがえのない存在である小学校の風景です。小学校は、単なる教育機関ではなく、地域の未来を担う子どもたちを育む重要な拠点であり、地域社会の活性化にも貢献する役割を担っています。
5	スクールコミュニティとは何ですか？ここに書かれてる理念を読んでも、何のことかわかりません。具体的に見えません。
6	地域にある企業(職業)や、文化的な資源や団体を知り、可能な範囲で交流することで、子どもたちからアイデアが生まれたり、やがてまた村を活性化させる大人に成長したりすることが望めるかもしれません。また、人とつながることを大切に実感できる子どもになると思います。
7	子ども達の数減っていく一方だと思う。全小学校と中学校が一緒になってもおかしくない未来は見えている気がする。また、少人数だとPTAなどの負担もかなり大変。
8	時代が違うから色々な事が客観的になってきていいと思います。
9	今の清内路小学校の校長先生は自ら進んで地域の中に飛び込んで、話をしてくださったり行事に出てくださいたりして下さいます。その姿を見て、先生と地域の人が交流することの大切さを学んでいます。学校はオープンですよ、いつでも来てくださいと言葉だけで言われても孫もいない私のような立場の住民はなかなか門をくぐれません。今の学校の雰囲気であればちょっと参観日に行ってみようかな？とか自然に思えると思います。でもそれもこの地域に学校があってくれるから実現できることです。ここに学校がなくなれば足も自然に遠のくことは確実ですね。
10	学校と地域のあり方や可能性を考えるにあたり、一番大事なことは子どもたちが当事者だということだと思います。大人だけが考えた枠組みに子どもたちを当てはめるやり方は、諮問1であげた育むべき資質や能力を奪ってしまうことです。時間はかかっても今の小中学生にこれからの学校のあり方を考えてもらうプロセスが重要だと感じます。(単にアンケートを書面でとるのではなく、参加型のワークショップなどの手法が有効だと思います)これにより子どもたちは自分たちの学校なんだ、地域なんだという意識が芽生え、これからの社会や時代に生きる力となると思います。そんな子どもの声を学校や地域が必要に応じてサポートする関係性の構築を希望します。
11	国や政府が当てにならず、出生数減は避けられないので、人口減少を前提に考えていかなければいけないと思います。
12	数字で人口動態や、出生率を出しているが、分析が甘いと思う。なぜ阿智村の人口流出が続いているのかももう少し真剣に分析・検討してほしい。大変大変だ、金が無いという報告であったが、何がどのように課題なのかの数値的なデータが無く、数字を出しても部分的な物であり、客観的に何が大変なのかわからない。
13	生徒たちが動くよりも、大人が学校へ行く方が交流できる。 学校をオープンにする(大人の学校のような学びの場とか設ける)
14	山村留学で子供を送り出している親です。東京からだ、とても遠いです。 デジタル活用で、遠方と繋がれるインフラ整備が必要かと思います。 例えば、テレワーク場所の設置、デジタル(オンライン会議)での繋がり、などなど、推進していくと良いかと思います。ノマドワーカーが働ける場所があると良いかと。
15	今も各地域しっかり連携している。今後今よりどう良くなって、具体的にどうなるのか。説明は抽象的すぎて全然イメージが湧かない。制度ではなく考え方？余計に理解ができない。各学校ごとの具体的な例をちゃんと示して住民に分かりやすく説明して欲しい。今のところそれ以上深い意見もないくらい抽象的すぎる。また学校が1つとなれば、自分の地域の子もだから多少無理してでも頑張って協力してきたが、自分の地域ばかりではなくなるなら、地域の人達の協力や連携は今より薄れると思う。その辺を踏まえて計画した方が良い。

16	もっと、出生数は減っている。阿智村全体として地域の良さでなく、私が住む〇〇地区の考え方が強い気がする。出生数の減少や建物の維持管理費のことは、以前から把握できたことなので、もう少し早くから話題にできなかったのかと感じる。
17	人口減少、出生数、校舎の建て替え、村民の負担額等、問題は多々ありますが、スクールコミュニティの考えは、各地区にそういう場所があるから子供達も大人も行きやすくなるのではないのでしょうか？
18	人口減少、少子化を考えて地域で協力しながら学校での学びを継続していけるようにする事はとても大切だと思いました。
19	参観などは日付や時間を限定しないと共働きや時間が偏りがちな人が関われる方が良いと思う
20	現在も地域の方に総合の授業を中心に関わってもらっています。地域の方に入っていただくことはありがたいですが、授業時間は足りるのか。現実実現可能な対策か疑問です。
21	(2) 出生数はR4年から激減しているが、明らかに新型コロナが原因。学校に限ることではないが、コロナ後にやめたイベントなどは一回元通りにしてみたらいいのではないか。 (3)① 当初配られた資料の『「建物劣化度」と「築年数」による整備の優先度』に比べると清内路小の印象が悪い。以前の資料では小学校の中では最も改修優先度は低かった。築年数云々より耐震性に問題なければ使い続けた方が良いのでは。ものを大切に長く使うという教育上においても。 (3)②③ 経費の試算が恣意的。一般的に物価が上がると税収や個人の収入も上がるはずで、インフレすれば額面の数字とその価値は変動するので一概に予算がただただ増えていくとは言えないのでは。一人当たり負担が増えるのは人口が減るのでその通りだが、高齢者の割合も団塊の世代が寿命を迎えると生産年齢人口とバランスしてくるのでそこまで負担が重くない可能性もある。 (4) 「こうした現状を踏まえ、、、スクールコミュニティが欠かせない」というのが全然理解できない。そもそもスクールコミュニティがよくわからない。具体的な事例があれば示してほしい。 (5)(6) 物理的な距離が離れてしまえば地域との関係づくりは絵に描いた餅のように思う。小学校から聞こえる太鼓の練習の音は離れてしまえば絶対聞かない。 具体例とかを読んででも今まであったようなことばかり書いてあり魅力を感じない。ワクワクしない。実際の事例を知りたい。
22	1)「人口減少/少子化」論に基づき学校統合経営合理化を導こうとしているが、視点が逆である。現代の課題は地域を再生しようやって地域の学校を維持発展させるかである。 2)P7学びのコミュニティ「従来の地域の枠を超えて」に端的に表れているように限界集落論をとっている。浪合村で試みられた地域を学びの場とした「浪合がっこう」の思想と経験を総括してほしい。
23	人口動態予測、出生数の減少の現状を表記しておりますが、村外からの流入人口・交流人口の全校生徒に占める割合についても各校別に整理をお願いします。また、浪合地区においては、浪合通年合宿センター(NPO法人なみあい育友会の運営)の活動により毎年約16名程度の村外からの児童が、村内の子どもたちと学校生活を送っております。今後、人口減少の継続が予想されるなか、このような取り組みの存在が非常に重要になると考えておりますので、当該取り組みについても、次回まとめ書に実態を整理し記載をお願いします。また、浪合地区においては、学校環境及び教育方針に魅力を感じ、例年数組の家族が主に都市圏から移住しており、児童数の維持に貢献しているものと思われます。他の小学校においても、村外からの移住者の占める割合等を調査し整理することにより、どの地域・小学校が魅力的な学校環境を有しているか理解するためには必要と考えます。
24	スクールコミュニティ、清内路はすでにやっていると思います。学校が主体となって地域を巻き込んでいます。中間まとめの説明が難しいという声が多いです。例えば、他学校のスクールコミュニティの実施例があればもっとよかったです。
25	②畑作りや田んぼ作り、遠足などの目的地やその知識など、先生や保護者ではまかなえきれない知識や技術があると思うので、地域のチカラをお借りできたらいいなと思います。 1年生の時の懇談会でも5年生の田んぼ作りの話題がありましたが、保護者が関わるとことても大切だと思いますが、田んぼ作りをしている地域の方に力を借りるとか、田んぼをお借りするとかできれば、もっと稲作への知識を深められるのではないかと思います。

諮問三 持続可能な学校のための教育理念や目標、制度等について(P8～12)

1	義務教育学校では小、中どちらの教員免許も持った人が必要ようだが、それを満たす人がどれくらいいるのか疑問。人材が少ないとしたら、今後の国の方針や施策等も見極めながら移行の可否や時期を検討してほしい。
2	不登校の子どもへの支援を充実させるのは良い事であると思うが、後付けの理由としてあげられているように感じてしまうので、不登校の子どもへの支援をひとつの軸にしてしまっても良いと思う。
3	地域(学校区単位)コミュニティから「阿智村スクールコミュニティ構想」に期待します。
4	小学校は、地域にとって希望の光であり、未来を照らす灯火です。子どもたちの成長を支え、地域活性化に貢献する小学校は、地域社会にとってかけがえのない存在です。地域住民一人ひとりが小学校に関心を持ち、積極的に協力することで、より良い地域社会を築き上げることができるでしょう。地域と小学校が一体となって子どもたちを育むことで、未来を担う人材を育成し、持続可能な社会を実現することができるのです。
5	今も村内をバスで様々な場所で行き、交流しているので一体感が生まれとてもいいと感じています。GoogleのClassroomでのオンラインの会話や、共有スライド、スプレッドシートなどを用いて、徐々に学習も共に進めることもよいかもしれません。
6	教科担任制は子ども達とっても良いと思う。実際、子どもが今年度から担任ではない先生の授業を受けてとても楽しかったと帰って来た。とてもいいと言っており親としてもいい体験なんじゃないかと思った。
7	今のままで充分良いです。
8	ウェルビーイング？インクルーシブ教育？コミュニティスクール？スクールコミュニティ？ そんなカッコいい言葉でうまくまとめられちゃうとなんのこっちゃ？の連続です。カッコよく聞こえるけど、結局どうするの？子どもが減るから、経費もかかるからそれぞれの古い学校は維持できません、阿智村のどこかにひとまとめにしますってことなんですよ。ただ地域の大切さを学ばせることがそれで可能なんでしょうか？そんな文句を言っても人口減少はどうしようもないことはわかっていますが、人口減少を止めたいのに地域の学校がなくなって、子育てしにくくなったこの地域からまた若者が出ていって更に高齢化も進んで行く…負の連鎖しか思い浮かびません。
9	理念や目標については、今の小中学生がどんな学校でどんなことを学びたいか、どういう大人になりたいのかを考えてもらい、そこから導き出された意見を軸に大人の意見も盛り込み、彼らと合意形成を図るプロセスが大切だと思います。今回そういった流れで案を出していただいているということでしたら賛成です。また、今後阿智の学校を見直していくことは必要不可欠ですが、新しい経営や制度の活用にある「小中一貫の義務教育学校」「学びの多様化学校」については制度の活用の魅力を感じてはいるものの、これまで経験をしたことがなく実態がわからないという不安感があります。根羽やそれ以外の義務教育学校への視察のほか、複数の学びの多様化学校の視察を行われて、ぜひメリットデメリットとともに率直な感想などをざっくばらんにレポートしていただけるとありがたいです。あと1年間活動があるということです。様々な情報の中から阿智ならこのスタイルが良いのではないかという具体的なイメージを教えてくださいと幸いです。
10	諮問二に同じく、人口減少を前提に考えていかなければいけない。今のIT技術等を活かして、子供たちに不便のない学習環境を検討して頂きたいと思います。
11	教育施策実施にあたっての3つの課題(p19)としての取り組みは具体的にどうしたいのかを示してあり分かりやすかった。予算的に村の予算に対して、教育費を〇万円増額するなど客観的にわかる数字を出してくれると良いと思った。
12	良いと思います。 少人数になってからの在り方検討は大事だと思います
13	具体的な内容が見えなかった。将来、阿智村には、学校がなくなる。いや、人が住まなくなるんだなあと感じました。何か抜本的、かつチャレンジングな取り組みをしないと変わらないと感じます。
14	現状を見る限り義務教育学校も仕方がないことだと思う。 教育理念が、世界に羽ばたくような子どもの資質を求め、羽ばたいていく子どもばかりなら阿智村には誰も住まなくなる。持続可能とは？
15	小学校と中学校が一貫校になるイメージが湧かなくてよく分からない。小学生、中学生、年齢や発達もだいぶ異なるので学校(建物)は別々が良いと思う。

16	立派な目標すぎて、現実感を感じません。親とすると学校が楽しい！安心安全で送り出せる学校であることがまず大事です。スクールコミュニティもそれぞれの地域の特徴が強いので、決めだしていくことは難しいのではないかな。
17	小中一貫の義務教育学校を作りたい、その方が子供達に合わせるというのは良いと思いました。色々な先生達が、色々な角度から子供を学舎へ導いてくれると期待もありますが、先生方が次々変わってしまうのも、安心できない時もあります。
18	子供たちが減ってしまってもきちんとした学びを地元で出来ることはとても大切だと思います。また、不登校の生徒への対応が多様化することで今後も子供たちが安心して勉強ができる環境を作っていって欲しいと思います。
19	卒業時点の能力を次の学校へ連携できるような仕組み。またセキュリティ等考える事は多いが学校や教師が情報共有できる仕組みが欲しい
20	1 ウェルビーイングならば持続可能な学校になるということが良くわからないのもっとわかるように説明がほしい。持続可能な学校に必要な要素は何を考えているか。教員人材、財源、、？ ウェルビーイングという言葉は10年後、20年後使われているだろうか。日本語で普遍的な言葉では言い表せないか。 2(2) 小学校の数を5から3へ減らすのでもなく、小学校を1つに統合するのでもなく、また規模を小さくして経費を抑えた学校を作るなどの選択肢がある中で、なぜ小中一貫校を選んだ理由がわからない、足りない。他の自治体で先行しているのなら良い点、悪い点がわかるはずなので示してほしい。 信濃町での視察の質問にも人口減少への歯止め、不登校児数の減少等はみられないとのことだったが、信濃町のどの点を評価して同じような小中一貫校に選択したのか知りたい。 9年小中一貫にしたところで時間は同じだけしかないので変わらないように思う。 2(3) 「高学年が低学年に勉強を教える学習支援」この部分はいらない。勉強は先生が教えてください。異学年での活動は小さい学校では現在普通にできている。人数が多くなると難しくなるのではないかな。 2(4) 大人が使いこなせていないのに教えられるのか。 2(5) 教師だけに負担が行かないように。家庭への積極的な介入も必要。
21	1) 定義もあいまいな外国語をもって教育理念として教育制度改革に持ち込もうとするのは無理がある。(ちなみに、well-being は社会性を重視した企業経営の在り方としてよく使われていることを指摘したい、すなわち心理学的経営思想である) 2) 「持続可能」性が求められているのは学校ではなく、地域である。地域から学校を奪うことは地域の壊滅をもたらす。(誰も学校の無い所に移住などしない)
22	諮問内容に、「急激な児童生徒数の減少が予想される中、持続可能な学校であるためには」とある一方で、ウェルビーイングを基盤とした教育や新たな教育理念(教育ビジョン)が、「生徒数減少と持続可能性」をどのように担保するのか全く理解ができません。また、後半にある「教育施策実施あたったの課題」の認識や「新たな学校経営や制度の活用」が、今後の児童数減少に歯止めをかけ、長期的な観点で、阿智村の小・中学校が維持運営されていくことにどうつながるのか、論理性に欠けると強く感じます。
23	持続可能な学校のために、なぜウェルビーイングを理念にかかげるのかわかりやすい説明をお願いしたい。
24	③今の第2小学校の規模で満足している(子どもにも丁寧に接して下さる。年齢に関係なく仲が良く、上級生が下級生に教えたり指導してくれたりするし、下級生も上級生を慕っている)ので、正直、これ以上規模が大きい小学校になるところには、とても不安があります。 ただ、運営的に小規模校では大変であることも理解はできます。 小中一貫校の考え方は、素敵だと思いました。具体的には意見を出せませんが、単純に、第1小学校に吸収合併されてしまうのではなく、新しい阿智村の小学校(小中一貫校)を作っていただけたらいいなと思いました。

中間まとめ全般について

1	義務教育学校の設置が提案されたことで1つの方策が見えたと思う。
2	夢のもてそうな答申だと思います。さらに確実にするために検討を深めてください。
3	昨日の話を聞いて、人口減少や建物の老朽化などから、このままの学校数を維持していくことは難しいと理解しました。また、中間まとめの方向性も統合に進んでいると感じました。 統合は仕方ないことかと思いますが、学校が減ることで、過疎化へ加速していかないか心配です。一度、同じような他の地域で学校の減少と人口の推移がわかるデータがあれば拝見したいです。 あと、新たな学校で魅力的な教育を実施することで移住者が増え、子どもの数が増えるといいなと思います。現に伊那市や佐久穂町ではそうなっているそうです。 最後に、地域懇談会の参加人数の少なさに驚きました。学校あつての地域だと思うので、もっと興味をもってもらえると良いですね。
4	最終答申の実施内容、スケジュール内容に期待します。
5	1、小中一貫校の視察について、女性委員から良い点のみの発言があったが、物事には表裏が必ずあるもので、各委員の方々が感じたり見たりした事の負の部分についての発言を明示頂きたい。 2、視察先の先生方・教育委員会の方々・地域の方々から、議論中のcどのような議論が有りそれをどのようにまとめたか知りたい。 3、視察先の先生方・教育委員会の方々・地域の方々から、実施後の正の部分と負の部分について、どうだったのか知りたい。
6	様々な地域の事例や、最先端と言われる教育理念のいいとこどりをした案。実現できるのか疑問に感じた。理想を掲げるよりも、今考えるべきは阿智村において実現可能なプラン。統合して中高一貫校にすることを前提としているように感じたので、村民の意見が反映されないことにガッカリしました。
7	広島県福山市の事例のようにならないように議論を進めていただきたい
8	中間まとめ記載内容は、理念でしかなく、具体的内容に乏しく、分かりづらい。理念の前に、阿智村特有の保守的な風土を見直し、改革案に耳を傾け、自由な意見を言いやすい、風通しの良い村にしないと、本テーマ当事者である子ども、親の若い世代の本音を引き出した議論ができない。それをできないと、この内容は絵に描いた餅で終わると思う。
9	今すぐ何ができるかは親にはわからない部分があるので、提案してくれたら意見は言えるが、このあり方検討委員会の紙はお堅いイメージしかない。もう少し簡潔に、読みやすいものを希望。
10	第一小学校も第二も第三も一緒になにかできる授業など触れ合いが増えたらみんなが中学生になった時気持ちに少し余裕もてるかなとおもいました！
11	あり方検討委員会の方々にはほんとうに大変なことを話合っていて感謝はしています。 この先間違いなく子どもは減ってしまうのですから何とかしなくちゃいけないのはよくわかります。 でも阿智村のそれぞれの地域の良さを残すためにも、若者がこの地域に帰りたいと思えるためにも何とか学校を残せる可能性を検討してほしいです。阿智村だからこそできる教育を、お願いします。
12	検討委員会の皆様、お忙しい中子どもたちの教育についてご尽力をいただきましてありがとうございます。学校のあり方について、一保護者として自分ごととして考えていかなければいけないなと思いました。一番の願いは、当事者である今の小中学生たちとともに参加型でこの取り組みを進めていくことです。子どもたちがこれからの時代で生きていく力を育むためにも良い経験となると思いますので、引き続き子どもたちの声に耳を傾けていただけたらと思います。
13	出生数の現時点が加速的に進んでいることが分かった。改めて色々な問題など、考えさせられると思いました。

14	全体的にお役所の一方的な報告であり、説明しようとする姿勢が全く感じられない報告・資料であり、とても残念であった。人数が限られているとはいえ内容が大学生のレポート並みで見ると堪えれない。数字の出し方も中途半端で、何が伝えたいのか、論点は何なのかが全く分からなかった。上長は添削をもっとまじめにやってほしい。阿智村だからこそ訴えることのできる魅力に関して全く触れておらず、自分たちの住む地域がどんな所かをいったん客観的に見る努力をした方がよいと思う。阿智村は山村留学で十数人単位で毎年全国から子どもが来ており、その流れを有効活用すればもっと村が活性化すると思われる。中学校を阿智中学1校にまとめてしまったのは、地域で子育てをするという理念をつぶした失策でしかない。小学校・中学校は地域のコミュニティをつなげる大切な場所であることは、役人であれば理解していると思うが、今一度考えを改めた方がよい。地域の子どもたちや山村留学生を阿智村に定着させる取り組みとして、無くなった地域の中学校を復活させることで一定の前進があると思われる。いきなり中学校を復活させることはできなくても、もっと各地域から阿智中学に通いやすい環境整備をもっと具体的にやることを検討してほしい。国の方針を何も頭を動かさずにそのままやるのではなくもう少し地域の実情を見てから行動し指針を建ててほしい。&パブリックコメントを本気で集めたいのであれば、それなりの資料をつくり、もっと丁寧な説明会を実施し、その場で参加者の意向を聞く努力をしてほしいと感じた。やる気が無いのであれば、そのままの形式で構わないです。その分村民は出ていく事を選ぶだけなので。。。
15	特になし
16	国からの指針ではなく、阿智村として、どうするか、もっと抜本的な内容に踏み込んでもらいたい。
17	中学校での説明を聞いて、時間も短いからだとは思いますが、とても分かりにくかった。一生懸命理解しようと説明を聞いていたが、正直理解できなかった。話す説明も先生らしく一方通行講義という印象だった。住民に分かってもらいたいという気持ちがあるなら、もう少し分かりやすい言葉や伝え方を考えるべき。今後の懇談会や説明会でもあの伝え方だと住民は理解できず取り残される。あとあんな説明聞くだけだと思うと懇談会開催してくれても参加する気はなくなる。
18	3/28の会にも出席しましたが、参加者が少なく、自分事としてとらえている人が少なすぎると感じます。学校での説明もよくわからなかったし、実際に今の保護者の中には我が子が中学卒業までにはないから関係ないと思っている人もいます。まずは今の学校が安心安全で子どもたちを通わせたいと思える学校であってほしい。
19	どこに小中一貫校を作るのか、まだ理想の中のようにかんじたので、具体的に時期や場所などの予定が決まってきたら、村民への説明会を開いて欲しいと思います。 できれば浪合小で卒業させてあげたいと願っています。
20	必要なことは網羅されていると思う。ただ、伝統や農業の技術を後世に繋ぐと言うことも外さないで欲しい
21	イメージしやすい具体的な方向性を教えてほしい
22	端的に、阿智村として子供達がどんな人に成長していったらいいのか。将来ここ阿智村で活躍して盛り上げてくれる人が欲しいのではないのか。阿智村で起業してくれる人、会社に貢献して務め上げてくれる人、屋神温泉と一緒に盛り上げる人、子育てをしてくれる人、各地の文化を守ってくれる人、そんな人たちが欲しいのではないのか。阿智村のお金・資源を使って教育するのだから、小中学校では阿智村のための教育であっていいのではないのか。子供達が成人して、村外各地に散らばった後に他の自治体とヨーイドンで一斉に人材競争する前に、少しでも優位に立って阿智村に戻ってきてもらえるように義務教育の期間も利用した方がよいのでは。 人口減少に目を逸らせるほど阿智村に余裕はあるのでしょうか。教育は結局は実際に教える先生次第。先生たちが来なくなる、やりがいを感じる、成長できるという点をもっと重視した方がよいと思う。職場環境・手当・研修。職務を増やさない、むしろ減らす、絞る。教える内容も絞る。あれもやれこれもやれでは先生の環境は整わない。やらない事を決める。余裕を作る。先生も職場体験してもいいかもしれない。ハードにお金を使わず先生達に投資していいと思う。 全国的にうまくいってそうな学校は確かな信念を持った校長や教育長が不可欠であるようにみえる。今の先生たちの中にもそれを彷彿とさせるような方はいると思う。阿智村として大枠この方向に行きたいということだけ示して、後は信念を持った先生にもっと自由にやってもらいたいのもいいのではと感じる。やっぱり先生達は教育のプロ。意見を聞く場が少ない。子供達にICTの活用を促すなら、大人も率先して使い、中間まとめの説明も録画で事前にも見てもらって直接集まる時には質問の時間をできるだけ多く取るようにしてほしい。

23	「まとめ」は、抽象的な教育理念を掲げながら、学校の合理化統合に導くものになっている。受け入れがたい。中高一貫性は検討する価値があると思えるが、統合による6・3制解消は無理がある(一部の僻地地域で苦肉の策としてやっているが)。地域や現場の声をよく聴いてほしい。
24	はじめに、あり方検討委員会による最終的な方向性(指針)の検討を始めるタイミングで、改めて検討方針の報告と意見の受け入れを希望します。本取り組みにおいて、中間まとめ書では、各小学校及び中学校における実態把握を行った記録がないため、今後のあり方は検討するうえでは、他地域の事例調査に優先し、現状の阿智村における実態の調査・把握を行い、現状を理解することが不可欠と考えます。当然ながら、地域における小・中学校の存在意義は非常に大きく、小・中学校が廃校となった地域は存続が厳しい状況となっている事例は多くみられると理解しています。阿智村において30年後も小・中学校が維持運営されていくために必要な手段や方向性について「統廃合」以外の可能性を含め検討をお願いします。 検討委員会の委員の皆様による本件の取り組み結果が、数年後の小学校統廃合、20年後の阿智村以外の地域への統合となり、結果として阿智村の地域コミュニティの崩壊、人口減少を加速を招き消滅地域となる第一歩とならないことを祈ります。
25	現場で働いている先生たちに意見をきいてほしい。先生が働きやすい環境が子供に影響する。色々な学校を経験している先生たちにも意見を聞きたい。
26	学校が地域からなくなるというのはどの地域にとっても一大事ですので、話し合いの機会を作っていただきたいです。懇談会を開いて下さったことには感謝しておりますが、手を挙げて意見を述べるという形ではなく、住民、保護者、子供たちと共に考えることができるよう、ワークショップ形式で話し合ってはいかがでしょうか。その上で、投票などしてはいかがでしょうか。 確かに、生徒数が少ないと得られない体験もあると思いますが、大人数の中で隠れるようにしていた私自身の経験からしても、むしろ少人数だからこそ、自分と違う人と付き合っていく力や、一人一人が主体的になる力が育つという面もあると思います。同じ年齢のそんなに沢山のひとと一塊りにいるような事は、大人になればそうはありません。むしろ、小さい学校で学年を超えて交流が深いことは社会に出てから役に立つのではないのでしょうか。 それぞれの地域に学校があることは、今後この美しい地域が存続していくためにとてもとても大事だと思います。「地方創生」と言われる時代ですから、そこにこそお金をかけたいものだと願っております。